

都市再生整備計画(第2回変更)

竜野駅周辺地区(第2期)

兵庫県 たつの市

令和7年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	兵庫県	市町村名	たつの市	地区名	竜野駅周辺地区(第2期)	面積	28 ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 4 年度 ~ 令和 7 年度				

<p>目標</p> <p>【大目標】魅力と活力ある都市交流拠点づくり 【目標1】交通利便性を生かした拠点づくり(都市基盤施設整備による利便性向上、交通結節点機能の強化) 【目標2】安心で快適な生活環境づくり(都市基盤施設整備による居住環境改善) 【目標3】地域の活性化に向けた交流づくり(地域コミュニティ活動による地域住民間交流の活性化)</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を考え、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 本市において、市街地の人口減少による低密度化が進み、利用者が減少することで今まで身近に利用することができた医療・福祉施設、商業施設及び金融機関や公共交通等の日常生活に必要な便利施設を維持することが困難となるため、居住や都市機能の集約による「密度の経済」の発揮を通じて、住民の生活利便性の維持・向上、地域経済の活性化、行政サービスの効率化等による行政コストの削減などの具体的な行政目的の達成に向け、コンパクトで持続可能なまちづくりを実現することが必要である。 揖保川地域は、市の中央部からやや南に位置し、西は相生市に接しており、姫路市や阪神間への通勤や通学のベッドタウンとしての性格が強い地域で、JR竜野駅周辺には、比較的小規模の宅地開発が相次ぎ、住宅、農地が混在しているため、道路や公園などの基盤整備による計画的な土地利用が必要である。 そのため、商業、教育文化、行政機能などの多様な既存の都市機能を維持・活用するとともに、JR竜野駅周辺整備に伴うコミュニティ施設や商業、医療などの新たな生活利便施設等の誘導を図ることにより、地域核にふさわしい魅力と活力ある市街地の形成を進める。 特にJR竜野駅周辺及び国道2号沿道地区においては、商業施設などの立地誘導を図り、JR竜野駅周辺整備及び鉄道駅などの交通利便性を生かした新たな住宅地の供給、空き家等の有効活用した良質な住宅ストックの供給により子育て世代・若者世代の転入促進や、UIターンなどによる移住・定住促進を図る。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>たつの市は兵庫県の南西部に位置しており、龍野市、新宮町、揖保川町、御津町の1市3町の合併により誕生し、平成27年10月で10周年を迎える(平成17年10月1日合併)。東西方向には山陽自動車道・国道2号・国道250号、南北方向には播磨自動車道・国道179号が通過し、またJR山陽本線、JR姫新線が運行され、阪神間も通勤圏内となっている。 本市ではこれまで自然・歴史・文化を生かしたまちづくりを進める一方、地域間を連結する交通ネットワーク形成に向けた幹線道路の整備促進、コミュニティバスの運行再編、JR姫新線の利用促進や、交通結節点の機能強化を図るJR姫新線本竜野駅と播磨新宮駅の駅舎橋上化等の周辺整備、JR竜野駅の駅構内バリアフリー化による都市機能の充実など、都市基盤づくりを進めてきた。 今後の急激な人口減少や少子高齢化の進展に対応するため、コンパクトシティ化が求められているが、本市においても平成27年12月に改定された「都市計画マスタープラン」において、市街地における都市機能及び生活利便施設の集積と居住の誘導による持続可能なまちづくりの推進、地域間の交流と連携を図るための拠点間を結ぶ交通ネットワークの構築・充実、高齢化社会に対応するため鉄道やバス等の公共交通機関利便性の向上など多極ネットワーク型コンパクトシティの実現を目指すこととしている。 「都市計画マスタープラン」において、竜野駅周辺地区は揖保川地域の「都市交流拠点」として位置づけられており、JR竜野駅を中心とした優れた交通利便性を活かしながら、姫路市や阪神間のベッドタウンとして更なる居住誘導を図るために、都市機能や生活利便施設の充実、良好な居住環境形成に向けた都市施設整備等、魅力と活力ある拠点形成を目指している。 しかしながら、本地区では国道2号を除いた全ての都市計画道路が未整備又は整備途中で、農地での無秩序な宅地化が急速に進行している状況にあり、本地区での拠点形成に向けた取り組みは急務となっている。</p> <p>本地区では地区中央を東西方向に並行して走るJR山陽本線と国道2号が南北市街地の分断要素となっており、JR竜野駅には駅南側のみ駅舎・改札口、駅前広場があり、駅へのアクセスは駅前広場に直結する東西道路と、国道・JRを跨ぐ南北自由通路(歩行者・自転車のみ通行可)のみである。そのため、駅北側からアクセスする車両交通は、国道と鉄道路踏切を横断して東西道路を通行することになり、朝夕の通勤通学時間帯は国道交差点・踏切付近から駅前広場にかけて非常に混雑し、歩行者・自転車通行との錯綜も見られ危険な状態であり、また、自由通路の昇降は、駅側ではスロープのみで、高齢者や車椅子利用者の通行が困難で、駅北側からのアクセスが非常に不便な状況となっている。 駅南側の駅前広場周辺では、地域住民等が交流する場所や日常的な買回りのための商業施設等も少ないことから、活力に乏しい状況にある。 地区南側の既存住宅地では、緊急車両の通行にも支障をきたす狭隘な道路・通学路や、防犯灯が少ない箇所が見られ、特に夜間の通行に不安を感じている住民が多い。 駅南地域では下水道事業の排水対策が未実施の箇所があり、大雨の度に浸水・冠水する箇所もある。</p> <p>現在の状況を踏まえて本地区では地域住民で構成される「竜野駅周辺地区まちづくり協議会」とともに、まちづくりの推進に向けた検討を重ねてきた。 また、地域団体『地域活性化推進委員会』では地域の活性化のために、竜野駅ふれあいフェスティバル等のイベントを開催し、更に地域団体『ジェニオ広場花の会』は、竜野駅前広場(愛称ジェニオ広場)において、駅前の景観形成と潤いを与えるため、四季折々の花植えなどの美化活動を行っている。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅北側から駅を利用しやすくするための既存自由通路のバリアフリー化、駅前広場及びアクセス道路等の整備を行い、駅利用者の利便性向上や交通結節点機能の強化を図る必要がある。 ・既存住宅地において安心・安全、快適に生活できるよう、狭隘道路の拡幅、歩道照明灯の設置、排水・浸水対策のための下水道整備等により居住環境を改善する必要がある。 ・地域コミュニティ施設整備や地域コミュニティ活動の支援を行い、地域住民間の交流を活性化して、地域コミュニティの強化や地域の賑わい創出、活性化につなげる必要がある。 ・これらを総合的に行うことで、生活利便施設等の立地促進や居住誘導につなげ、魅力と活力ある拠点を形成して、コンパクトなまちづくりを実現する必要がある。 <p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>【総合計画】 『たつの市建設計画』では、まちづくり施策として5つの柱と、それぞれの主要施策を体系的に定めているが、柱の1つに「活力あふれる交流と連携のまちづくり」があり、その主要施策として道路ネットワーク整備、公共交通の充実、市街地整備などが位置づけられている。 平成28年度末に策定した『第2次たつの市総合計画』では、「みんなで創る 快適実感都市「たつの」」をまちづくりの将来像として取り組むこととしている。本施策はそれを達成するため、5つの目標を掲げた施策の大綱を示し、実現するために必要な施策を展開していくこととしている。この中の「基本目標1 安全・安心なまちづくりへの挑戦～自然を守り、だれもが安全に安心して住み続けたいまち～」については、竜野駅周辺のまちづくりの基本とし、市街地の整備や市内のJR駅周辺の整備を図るとともに、人口減少問題、少子高齢化社会に対応するため、コンパクトで持続可能なまちづくりを目指す。あわせて、各都市交流拠点を連結する道路ネットワークの構築を推進し、鉄道・バスなど公共交通が相互に連携した市民が移動しやすい総合的な交通ネットワークにより、安全で便利な公共交通環境の整備を進めることとしている。また、竜野駅を中心とした拠点形成に向け、地域住民と協働でまちづくりを進め、魅力と活力ある拠点づくりを目指すこととしている。 『都市計画マスタープラン』では、本地区を都市交流拠点として位置づけ、JR竜野駅を中心とした優れた交通利便性を生かし、商業・業務、教育文化、行政機能などの多様な施設の集積や都市機能の充実を図るとともに、良好な居住環境の形成を図るため、道路や公園などの都市施設の整備を進め、魅力と活力ある拠点づくりを目指すこととしている。</p> <p>平成28年度末に策定した『立地適正化計画』及び『地域公共交通網形成計画』により、市民が安心して快適に生活できる環境を有した持続可能なまちづくりに向け、居住と都市機能の誘導と地域公共交通の再編の連携により、利便性の高い公共交通で結ばれたコンパクトなまちを進めていく。</p>

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

医療施設として、診療所は現状において充足しているが、子育て世代等の定住促進を図るうえでも必要な小児科や、地域のかかりつけ医を配置する。
 文化施設として、JR竜野駅周辺に新たに地域交流センターを整備を行い、地域の活性化を支援する。
 健康増進施設として公園整備を行い、子供の遊び場や地域住民の憩いの場を提供する。
 商業施設として、食料品スーパー・専門量販店等の立地誘導を行い、地域住民の日常生活の利便性を高める。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

既存の自由通路のバリアフリー化、JR竜野駅前広場を整備することにより、駅利用者の利便性向上や交通結節点の機能強化を行う。
 JR竜野駅へのアクセス道路や地区内道路の整備を行い、居住環境改善に向けた都市基盤施設の充実を図る。
 高次都市施設として地域交流センターをJR竜野駅周辺に整備することにより、地域活動拠点として地元住民が集まりやすく、駅前広場でのイベント活動や駅前広場美化活動など、地域主体でコミュニティ活動の実践を促す。

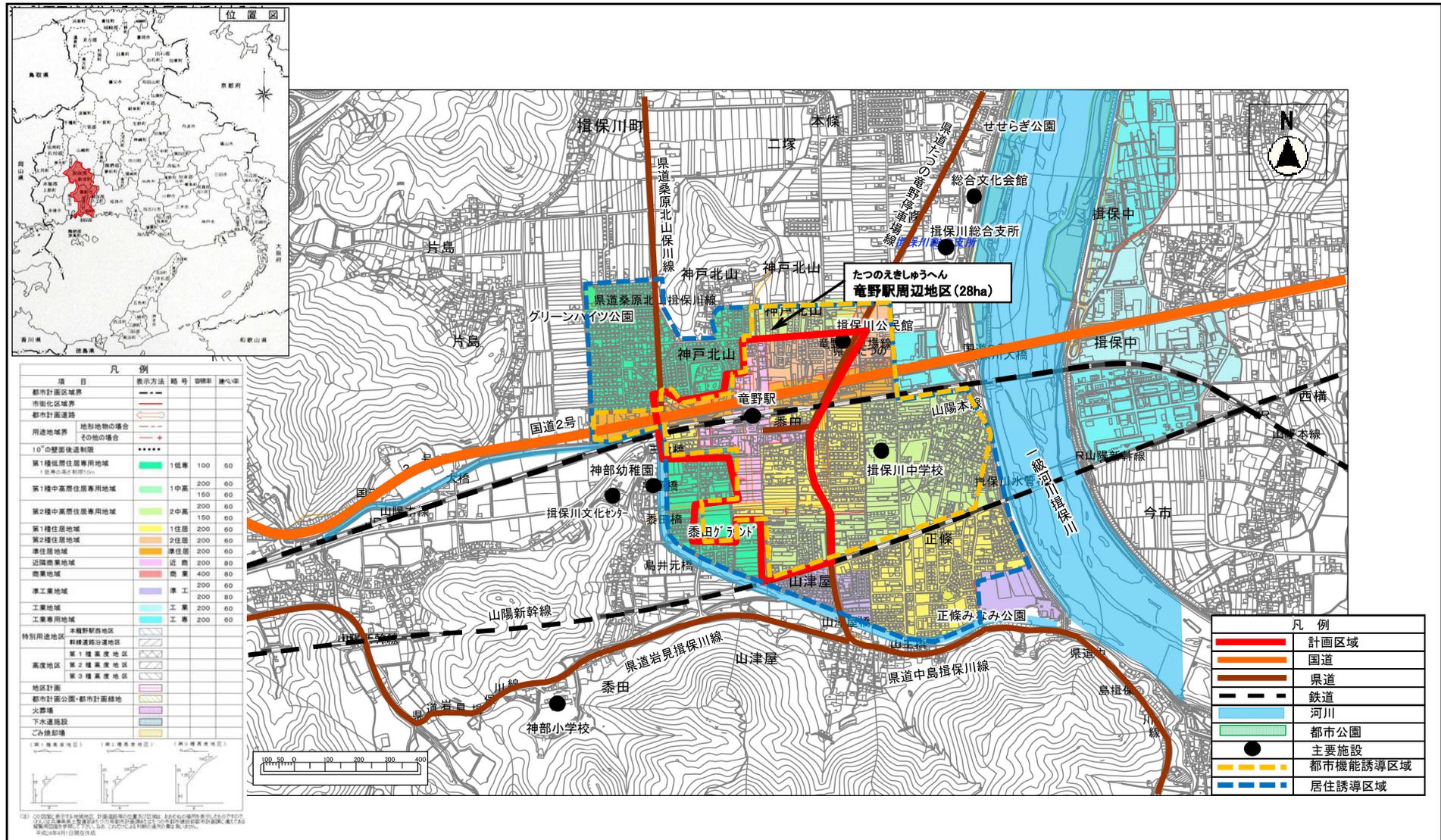
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
竜野駅及び周辺環境に対する満足度	%	『地域住民アンケート調査(JR竜野駅周辺整備の効果)』において、「駅前広場、自由通路のバリアフリー化、道路整備による安全性及び利便性向上の効果」「公園の整備によって子供の遊び場や地域住民の憩い・レクリエーションの場となる快適な生活環境を与える効果」に対し「どちらとも言えない」「ないと思う」と回答した人の割合(2項目の平均値)	駅利用者の利便性向上や交通結節点機能の強化、居住環境改善に向けた都市基盤施設整備(目標1・2)により、駅前広場、自由通路、地区内道路や公園に対する地域住民の不満を解消する。	32%	R3	24%	R7
活動回数	回/年	主に竜野駅周辺を舞台に活動を展開する「竜野駅周辺地区まちづくり協議会」の年間活動回数	交通結節機能の強化(社会資本整備総合交付金を活用)と一体となった交流機能等の整備(目標3)により、竜野駅周辺における活動回数の増加を目指す。	32回/年	R3	44回/年	R7

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【交通利便性を生かした拠点づくり(都市基盤施設整備による駅利用者への利便性向上、交通結節点機能の強化)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者など、誰もが安心・安全・快適に自由通路を利用し、また円滑に南北が行き来でき、駅にアクセスできるよう既存自由通路を活用した既存自由通路のバリアフリー化等の整備を行う。 ・都市交流拠点として、交通ネットワークの向上、交通結節点機能強化及び駅南側に集中する車両交通を分散し、円滑な交通処理を行うために、駅南北のアクセスである都市計画道路、駅南の駅前広場の拡張整備による機能強化を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由通路整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ・駅前広場整備(シルター)(基幹事業/高質空間形成施設) ・竜野駅周辺地区事業効果分析調査(提案事業/事業活用調査) ・(都)駅前南線、駅南駅前広場(関連事業/道路事業) ・(都)山津屋原線(関連事業/道路事業) ・竜野駅橋上化事業(関連事業) ・(都)駅前北線(関連事業/道路事業)
<p>【安心で快適な生活環境づくり(都市基盤施設整備による居住環境改善)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の児童通学路の狭い道路について、児童の安全確保のための道路整備を行う。また、その他の幅員狭小な道路についても拡幅し、関連事業で整備を行う(都)駅前南線、(都)山津屋原線に接続して、安全性の向上や緊急車両の通行を確保し、地区内の生活環境の改善を図る。 ・犯罪や事故を抑制し、安心・安全なまちをつくるため、駅前のメインストリートとなる(都)駅前南線に花飾りができる歩道照明灯の設置を行い、明るい歩行空間と良好な景観を形成する。 ・雨水の排水・浸水対策として下水道整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道照明灯の設置(提案事業/地域創造支援事業) ・竜野駅周辺地区事業効果分析調査(提案事業/事業活用調査) ・市道山津屋原線整備(関連事業) ・市道山津屋原線整備(関連事業) ・雨水対策整備(関連事業/下水道事業)
<p>【地域の活性化に向けた交流づくり(地域コミュニティ活動による地域住民間交流の活性化)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが地域のことを理解できるように、分かりやすい案内板の設置を行う。 ・地域住民が集い交流を深め、地域の活性化を支援するため交流拠点施設を整備する。 ・事業後のまちづくりを見据え、地域のまちづくりを地域で考えることができるよう「竜野駅周辺地区まちづくり協議会」の支援を行う。 ・駅前とメインストリートとなる駅南側の明るく、景観と潤いのある歩行空間を形成するため、四季折々の花植えなどの美化活動を行う。 ・駅周辺の活性化や人々の交流を支援するため、地域住民や来街者がふれあう駅前イベントを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内板設置(関連事業) ・地域交流センター((基幹事業/高次都市施設) ・竜野駅周辺地区事業効果分析調査(提案事業/事業活用調査) ・竜野駅周辺地区まちづくり協議会支援(提案事業/まちづくり活動推進事業) ・竜野駅前花飾り事業(関連事業) ・竜野駅ふれあいフェスティバル(関連事業)
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりに向けた地元の熱意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民で構成した「竜野駅地域活性化推進委員会」が主体となり、竜野駅周辺地区の活性化に向けたイベント活動を取り組んでおり、平成25年度には「竜野駅周辺まちづくり協議会」が発足し、竜野駅周辺のまちづくりに取り組んでいる。 ・さらに、地元団体『ジェニオ広場花の会』は、竜野駅前広場(愛称ジェニオ広場)において、駅前の景観形成と潤いを与えるため、四季折々の花植えなどの美化活動を継続的に行っている。 ・『地域住民アンケート調査(H25.6~7)』や『駅利用者アンケート調査(H26.10)』結果において、駅の利便性向上や駅前広場の整備、安全・快適な道路整備、公園整備など、「利便性が高く、災害にも強い、安心して住み続けられるまち」づくりを望む声が多い。 <p>【事業終了後の継続的なまちづくり活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と市が協働でまちの維持管理を行っていく。 ・本計画に位置づけられた事業を契機に、地域への愛着を育み、「まちづくりの実施」から「まちづくりの持続」へと発展させる。 <p>【市のまちの将来への取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、本市においても人口減少が見込まれており、まちの将来に向け、高齢者や子育て世代など市民が安心して快適に生活できる環境を有した持続可能なまちづくりに向け、各地域の拠点を軸とした居住や都市の生活を支える機能誘導によるコンパクトなまちとして「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を目指し、コンパクトシティの実現に向けたまちづくりと連携して地域公共交通ネットワークを形成した「コンパクトシティ プラス ネットワーク」のまちづくりを進めていく。 	

竜野駅周辺地区(第2期)(兵庫県たつの市)	面積	28.0 ha	区域	たつの市揖保川町黍田、山津屋、神戸北山の一部
-----------------------	----	---------	----	------------------------



竜野駅周辺地区(第2期)(兵庫県たつの市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	【大目標】魅力と活力ある都市交流拠点づくり 【目標1】交通利便性を生かした拠点づくり(都市基盤施設整備による利便性向上、交通結節点機能の強化) 【目標2】安心で快適な生活環境づくり(都市基盤施設整備による居住環境改善) 【目標3】地域の活性化に向けた交流づくり(地域コミュニティ活動による地域住民間交流の活性化)	代表的な指標	竜野駅及び周辺環境に対する満足度	%	32% (R3年度)	→	24% (R7年度)
		活動回数	回/年	32回/年 (R3年度)	→	44回/年 (R7年度)	

